

財政状況をもっとわかりやすく！

くまどりの財政

～令和元年度決算～



総合政策部 財政課

も く じ

| | |
|-----------------------|----|
| ①「財政」ってなに？ | 1 |
| ②決算の概要 | 2 |
| ③歳入（収入）は？ | 3 |
| ④歳出（支出）は？【目的別】 | 4 |
| ⑤歳出（支出）は？【性質別①】 | 5 |
| 歳出（支出）は？【性質別②】 | 6 |
| ⑥令和元年度に実施した事業 | 7 |
| ⑦借金（町債）は？ | 8 |
| 借金（町債）って必要なの？ | 9 |
| ⑧貯金（基金）は？ | 10 |
| ⑨他団体との比較【歳入】 | 11 |
| 他団体との比較【歳出】 | 12 |
| 他団体との比較【地方債・基金】 | 13 |
| ⑩財政状況は大丈夫？ | 14 |
| ⑪第3次行財政構造改革プラン【目標・実績】 | 15 |
| ⑫公共施設等の老朽化対策 | 17 |
| ⑬これからどうなっていくんだろう？ | 18 |
| ⑭課題と取り組み（まとめ） | 19 |



①「財政」ってなに？

「財政」とは、わかりやすく言うと**「お金のやりくり（収支）」**のことです。
各家庭では、お給料をどのようにやりくりするかを考えていると思いますが、町でも皆さまに納めていただく税金などをどう使っていくか、必要性や優先順位を考えながらやりくりをしています。

行政では、この「お金のやりくり（収支）」を、原則、年度ごとにおこなっています。

① 予算

1年間の収入と支出を見積もる**「お金のやりくり（収支）」**の**計画**です。

② 執行

予算を**執行**する。（行政サービスの提供）

③ 決算

お金がどのくらい集まり、どのように使われたかの**結果**です。

この流れを**「財政」**っていうんだね。



② 決算の概要

令和元年度の決算は、

歳入（収入）は、147億9,505万7千円（対前年比 △54億612万4千円）

歳出（支出）は、144億5,302万9千円です。（対前年比 △55億2,925万3千円）

形式収支（歳入－歳出）は3億4,202万8千円となり、翌年度に繰り越す事業（令和元年度中に完了しなかった事業）に使うための財源2億8,928万6千円を差し引いた「**実質収支**」が5,274万2千円の黒字となっています。

※財政調整基金から1億3,600万円を繰り入れています。



「実質収支」ってなに？



その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標です。

実質収支の黒字額は翌年度の歳入として繰り越され、事業の実施や財政調整基金の積立などにあてられます。

※基金（貯金）については10ページで説明します。



歳入面

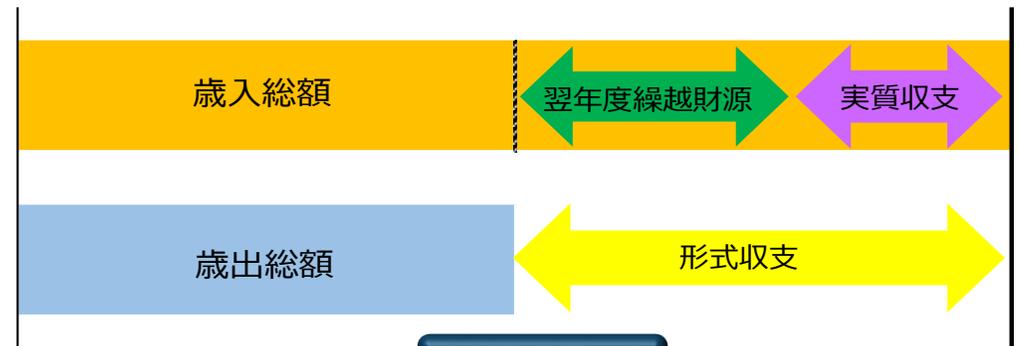
【増加要因】

- 町税が増加
- 国・府支出金、地方交付税が増加

【減少要因】

- ふるさと応援寄附金が大幅減少
- 地方消費税交付金、自動車取得税交付金、分担金及び負担金が減少

● 実質収支のイメージ（収支が黒字の場合）



歳出面

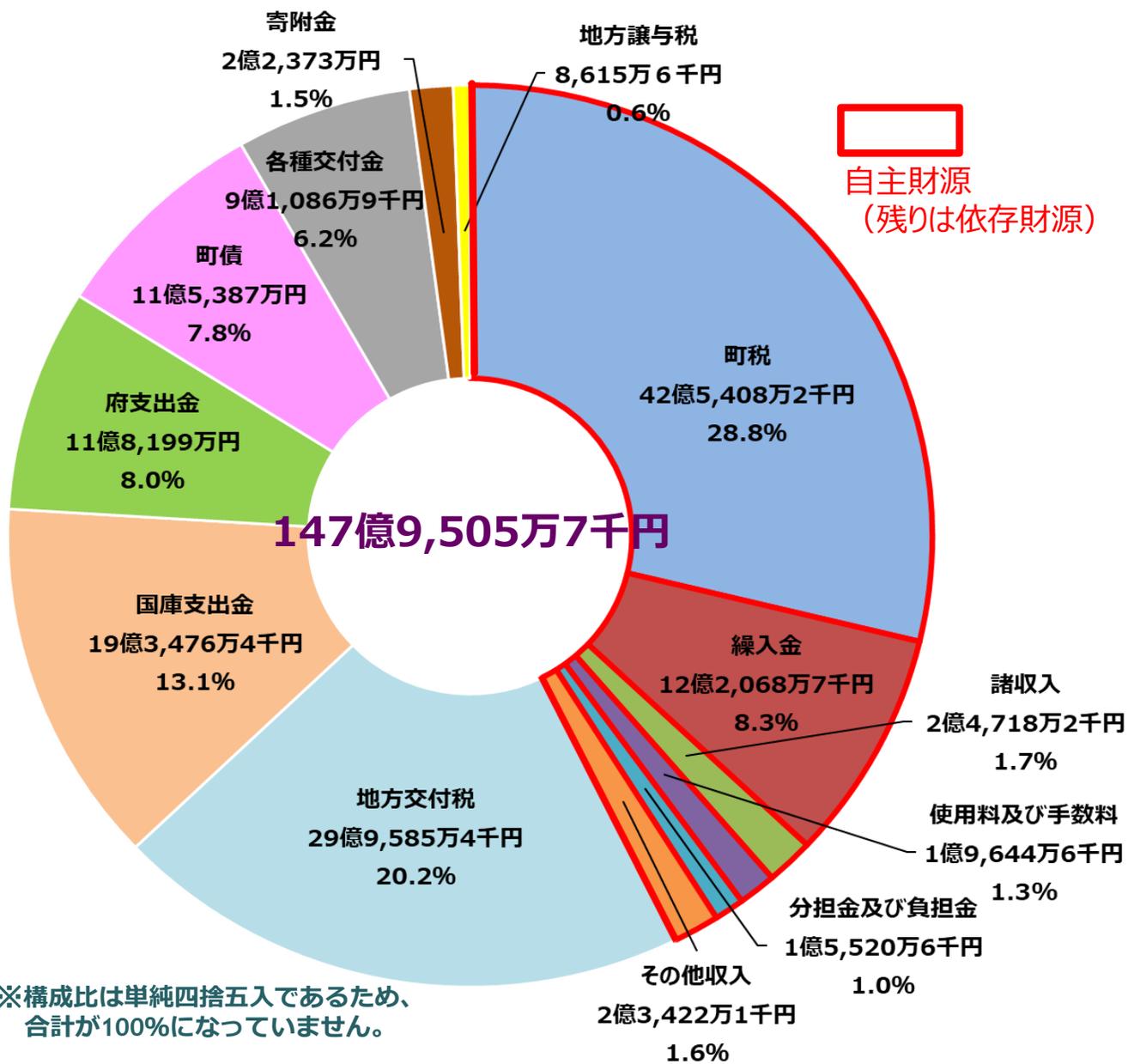
【増加要因】

- 幼児教育・保育無償化の影響などにより扶助費が増加
- 中央保育所大規模改修工事など普通建設事業費が増加

【減少要因】

- ふるさと応援寄附金が減少したことに伴い、積立金や補助費等（返礼品などの経費）が大幅減少
- 人件費（退職手当）が減少

③歳入（収入）は？



令和元年度の歳入総額は147億9,505万7千円となり、前年度（202億118万1千円）と比べて54億612万4千円減少しました。

⇒ふるさと納税制度の変更により、くまもりふるさと寄附金が減少したことが主な要因です。

歳入には、町税をはじめ、国や大阪府からの補助金、地方交付税、ふるさと納税による寄附金などがあります。

町に入るお金は大きく分けて「**自主財源**」と「**依存財源**」があり、「自主財源」が多いほど、自主的で安定性のある行政活動が可能になります。

町の自主財源は全体の約4割程度となっており、自主財源のさらなる確保に向けた取り組みをすすめる必要があります。⚠ **課題**

【自主財源・依存財源】

- 自主財源：町が自主的に集めることができるお金
- 依存財源：国や大阪府からのお金など、町が自主的に集めることができないお金

【地方交付税】

- 地方自治体間の税収格差を調整するために、国から配分されるお金



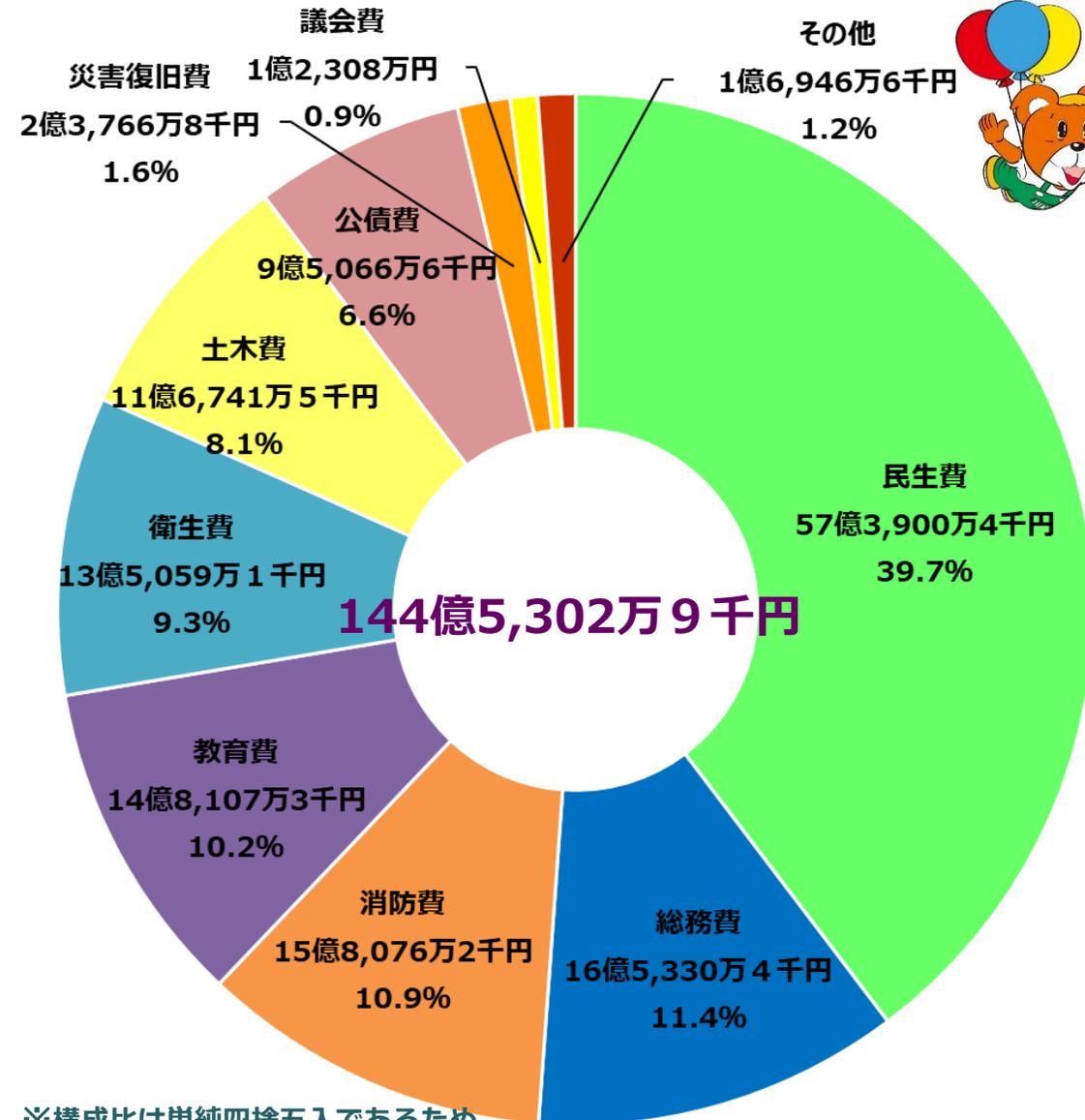
※構成比は単純四捨五入であるため、合計が100%になっていません。

④歳出（支出）は？【目的別】



◎歳出「目的別」とは予算をどんな目的で使ったかということだよ。

令和元年度の歳出総額は144億5,302万9千円となり、前年度（199億8,228万2千円）と比べて55億2,925万3千円減少しました。



- 「民生費」：高齢者や障がいを持つ方、保育などのために子どもや高齢者や障がい者などの福祉サービスが全体の4割を占めています。高齢化による社会保障関連経費の伸びなどにより今後も増えていくことが想定されます。（前年度と比べて約5億9,000万円増加）
- 「総務費」：戸籍関係業務、税務関係、自治振興などのためにふるさと納税に係る経費が減少したため、前年度と比べて約74億2,400万円減少しました。
- 「消防費」：消防や防災などの災害対策のためにくまもり防災基金創設に伴う積立金や指定避難所における防災資機材倉庫の設置などにより約9億7,700万円増加しました。
- 「教育費」：学校教育や文化、スポーツ振興などのために小学校のトイレ洋式化や中家住宅表門の耐震化工事などにより約3,600万円増加しました。



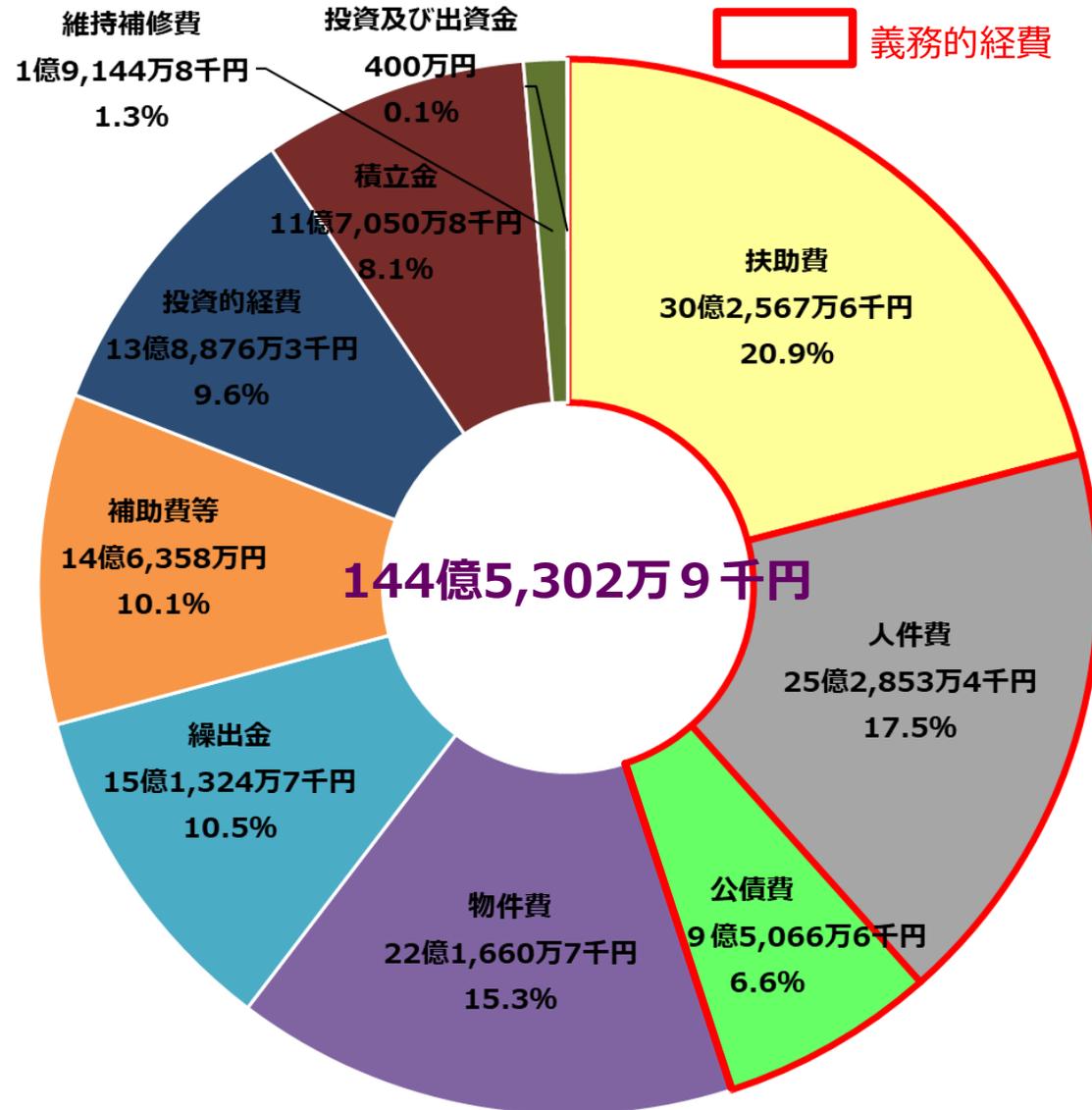
- 「衛生費」：町民の健康を守ること、ごみの処理などのために
- 「土木費」：道路や公園などの建設・管理などのために
- 「公債費」：各施設建設時などに借入れた町債の返済のために
- 「災害復旧費」：災害復旧にかかる工事などのために
- 「議会費」：議会運営などのために
- 「その他」：農商工業振興などのために

※構成比は単純四捨五入であるため、合計が100%になっていません。

⑤歳出（支出）は？【性質別①】



歳出「**性質別**」とはどんな性質の予算をどれくらい使ったかということだよ。



用語の解説

| | |
|---------|------------------------------------------------|
| 扶助費 | 児童・高齢者・障がい者などに対しておこなう支援に要する経費 |
| 人件費 | 職員の給与など |
| 公債費 | 資金調達のために借り入れた町債を返済する経費 |
| 補助費等 | 各種団体等に対する助成金や負担金など |
| 積立金 | 財政運営を計画的におこなうため、備えとして積立てる経費 |
| 物件費 | 人件費、維持補修費、扶助費、補助費等以外の、地方公共団体が支出する消費的性質をもつ経費の総称 |
| 繰出金 | 一般会計と特別会計などの会計間で支出される経費 |
| 投資的経費 | 道路、学校、庁舎など施設の整備、建設など施設等がストックとして将来に残るものに支出される経費 |
| 維持補修費 | 公共用施設等を補修するなどし、その効用を維持するための経費 |
| 投資及び出資金 | （熊取町では）水道事業への出資にかかる経費 |

義務的経費

支出が義務付けられている経費です。⇒人件費、扶助費、公債費がこれにあたります。

歳出（支出）は？【性質別②】

令和元年度の歳出総額は、昨年と比べて約55億円減少したんだよね！？なんでなんだろう？



主な増減要因

【扶助費】

- 社会保障関係経費の増加などにより約3億5,000万円増加

【公債費】

- 償還終了や据置期間の設定により約8,700万円減少

【人件費】

- 退職手当の減少などにより約6,800万円減少

【物件費や補助費等】

- ふるさと納税に係る経費の減少などにより約41億円減少

【投資的経費】

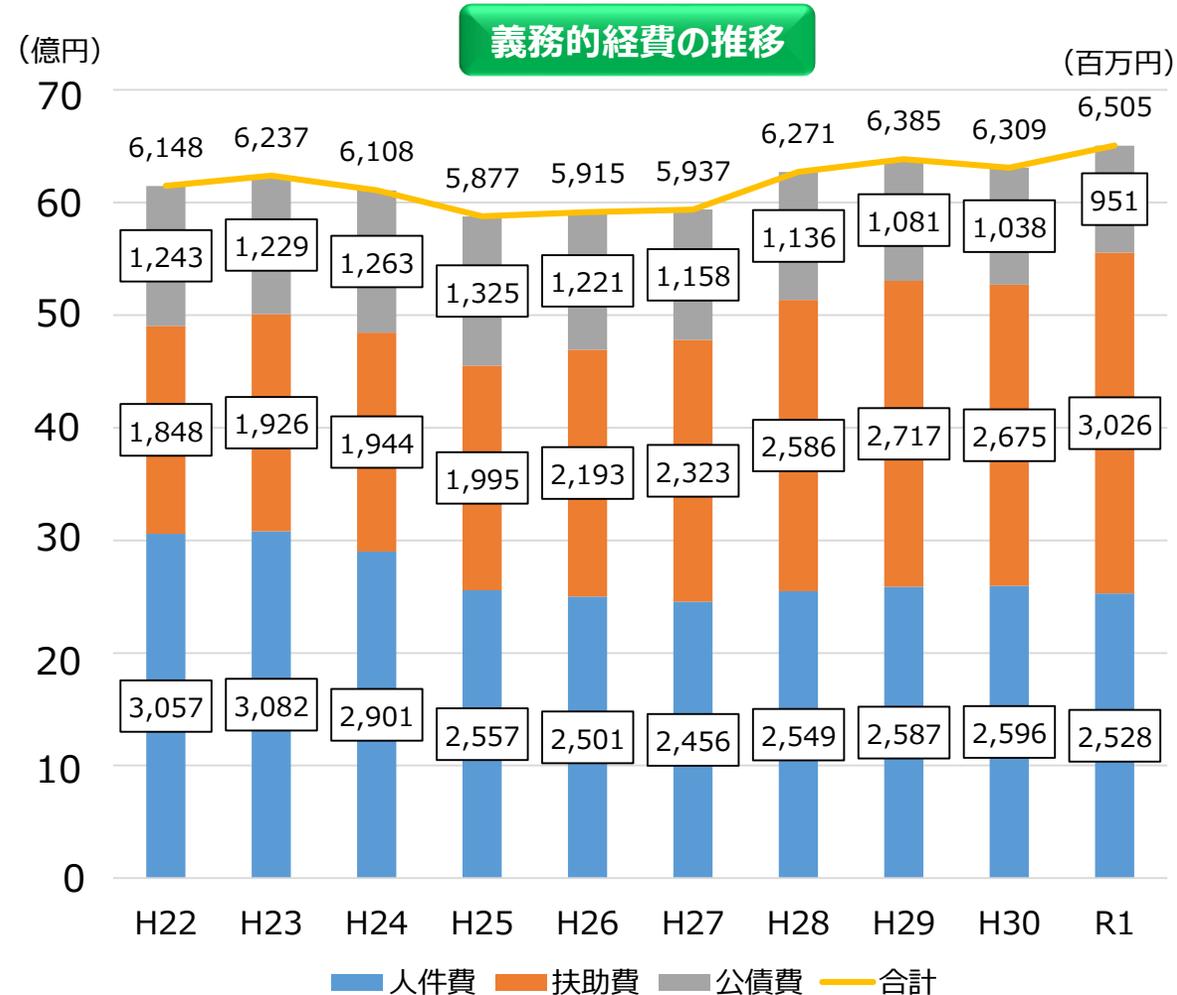
- 町立小学校トイレ洋式化、中央保育所大規模改修などにより約5億円増加

【積立金】

- ふるさと応援寄附金の減少により約22億円減少

POINT

少子高齢化に伴い高齢者、障がい者に対する扶助費が増加していることに加え、子育て支援に係る経費（保育所や子ども医療費助成など）も増加しています。さらに、公共施設の老朽化や耐震化の対策が必要になってきますが、これらの経費は今後さらに増加していくことも想定され、厳しい財政運営が続きます。



10年前と比べ、人件費は下がりましたが、扶助費が大きく増加しています。義務的経費が増えてくると自由に使えるお金が少なくなってしまう。

⑥ 令和元年度に実施した事業

令和元年度に整備した施設などの写真だよ。このほかにも、たくさんの投資的事業（建設事業）を実施したよ。

（金額は、令和元年度決算額であるため総事業費と異なる場合があります。）



中央保育所大規模改修工事

中央保育所の大規模改修が完了しました。

1億600万円



向田橋（むかいだばし）修繕工事

向田橋の修繕工事が令和元年度に完了しました。

3,100万円



防災資機材整備事業

小・中学校の計8か所に防災倉庫を設置しました。

1,100万円

平成30年度の台風21号により被害を受けた中家住宅の復旧工事を実施しました。



中家住宅災害復旧工事

5,600万円

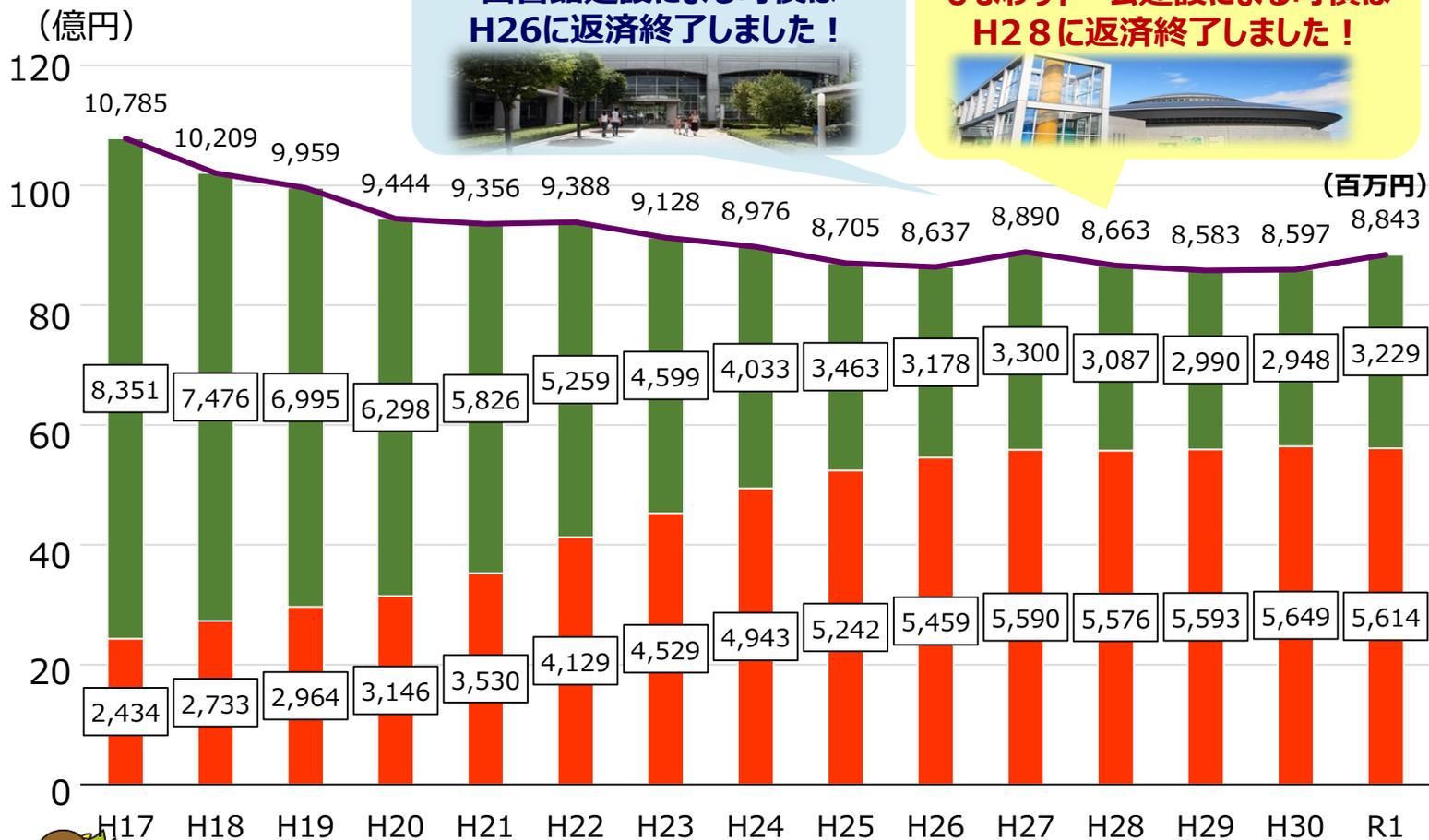
【その他令和元年度に実施した事業】



- 永楽ダム周辺道路法面修繕工事【6,200万円】
- 町立小学校トイレ洋式化改修工事【2億6,400万円】
- 長池オアシス公園施設更新【6,100万円】
- 環境センター設備改修（二軸せん断破碎機設置）【7,000万円】
- 熊取町立南中学校屋根災害復旧工事【9,400万円】

7 借金（町債）は？

町債残高【一般会計】



臨時財政対策債以外の町債は、公共施設（道路、庁舎等）の建設などに使われているよ。

■ 臨時財政対策債
 ■ その他
 — 町債残高（合計）

POINT

一般会計における熊取町の町債残高（借金）は、令和元年度末時点で約88億円あります。

臨時財政対策債（臨財債）以外の町債は、主に公共施設の建設のために発行したもので、過去に図書館やひまわりドームなどの建設で発行した町債の返済（償還）が進んでいることから、減少傾向にありましたが、令和元年度については投資的事業の増加などにより約3億円増加しました。

一方で、臨時財政対策債の残高は、全体の約6割を占めています。

用語の解説

臨時財政対策債（臨財債）

国が地方交付税を交付するにあたり、財源が不足した場合に、その代わりとして地方自治体に地方債を発行（借入）させる制度です。

臨時財政対策債の返済に必要なお金は、後年度に国から全額地方交付税で措置されますので、地方交付税の代わりとなるお金といえます。



借金（町債）って必要なの？

- ✓ 施設の多くは**長期間にわたって何世代も**の人が利用します。例えば、図書館を建設すると少なくともこの先20年は利用されます。このことは、図書館を建設した効果が20年間持続しているとも言えます。
- ✓ もし、地方債（町債）を活用しなかったら、建設した年度の住民が納めた税金だけで建設費用をまかなうこととなり、**その年度の住民の負担**が大きくなります。また、10年後や20年後の住民は、図書館を利用するだけで全く負担しないことになるので、**世代間で不公平**が生じます。
- ✓ さらに、図書館の建設には**多額の費用**がかかります。しかし、税金など地方債以外の収入は、その年度に建設があるからといって増えるわけではないので、**収入と支出のバランス**がとれなくなってしまいますし、限られた収入の中では、他の事業を圧迫する恐れがあります。
- ✓ そこで、**地方債（町債）**を活用すると、借り入れた資金を長期間にわたって返済することができるため、結果的に建設費用を**各世代で分担**することになります。建設した年度の住民だけでなく、この先、図書館を利用する住民も、**返済する = 建設費用を負担**することになり、利用と負担のバランスをとることができます。

負担が**大きい**



負担なし



地方債
の活用

長期間にわたって返済 = 各世代で分担



赤字をうめるためではないんだね
住宅ローンのようなものかな！？

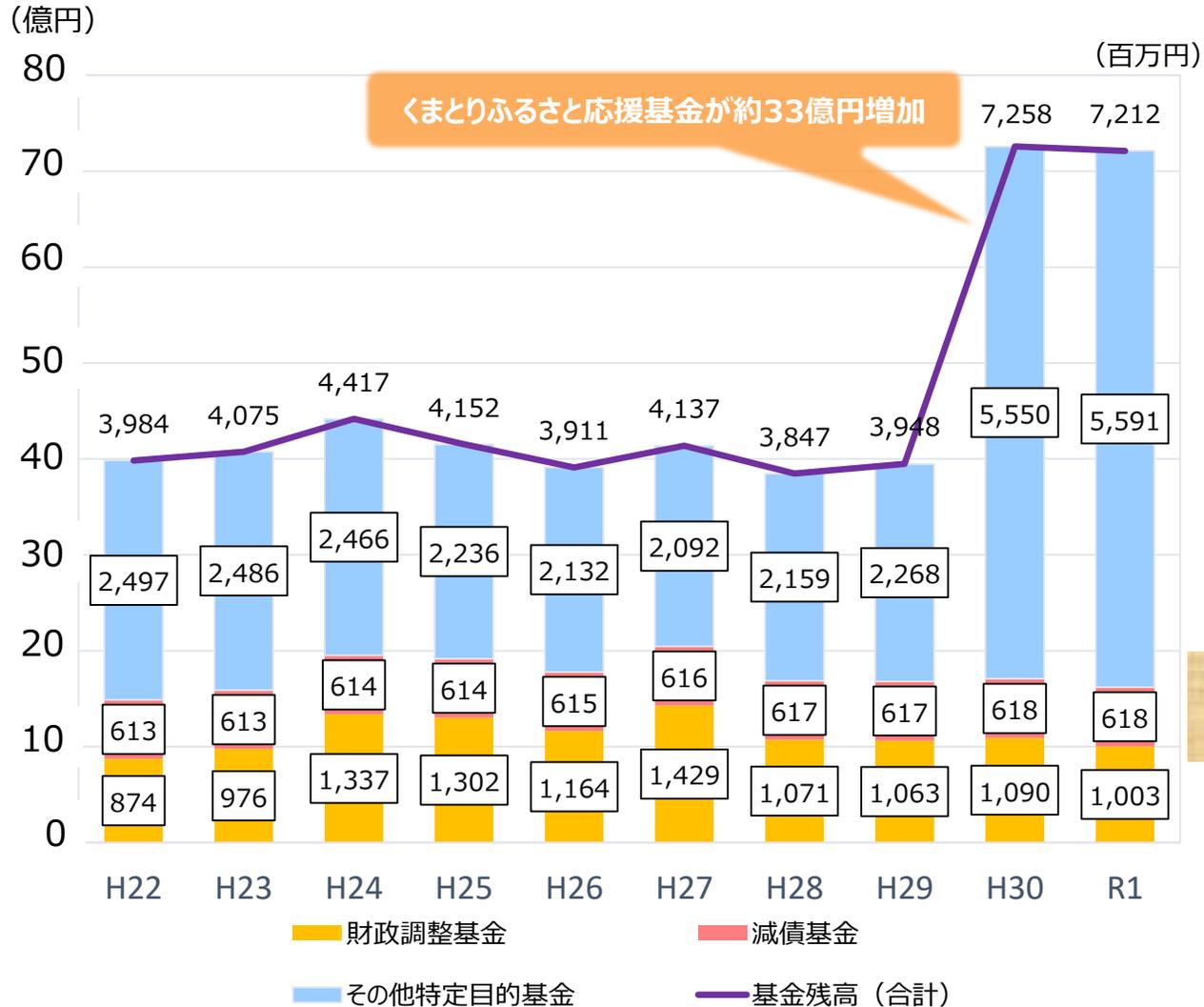


将来にわたって負担を分担するため、
その年度の収入と支出のバランスをとるためなんだね



⑧貯金（基金）は？

基金残高



財政調整基金

※令和元年度末時点の残高

財政調整基金 (S48.2.22設置) 10億322万1千円
 年度間の財源の不均衡を調整し、計画的な財政運営を行うための基金

減債基金

減債基金 (H元.9.29設置) 6億1,776万円
 町債の償還に備えて積立てる基金

その他特定目的基金

公共施設整備基金 (S48.2.22設置) 15億3,181万7千円
 公共施設整備事業を円滑かつ効率的におこなうための基金

地域福祉基金 (H3.3.9設置) 5,509万4千円
 高齢者等の保健福祉の増進を図るための基金

くまもりふるさと応援基金 (H22.10.14設置) 29億2,650万8千円
 定住魅力のあるまちづくりを推進するための基金

産業活性化基金 (H26.4.1設置) 7,801万7千円
 地域産業の活性化をはかるための基金

くまもり防災基金 (H31.3.29設置) 10億円
 災害発生時に応急対策及び復旧をはかるための基金

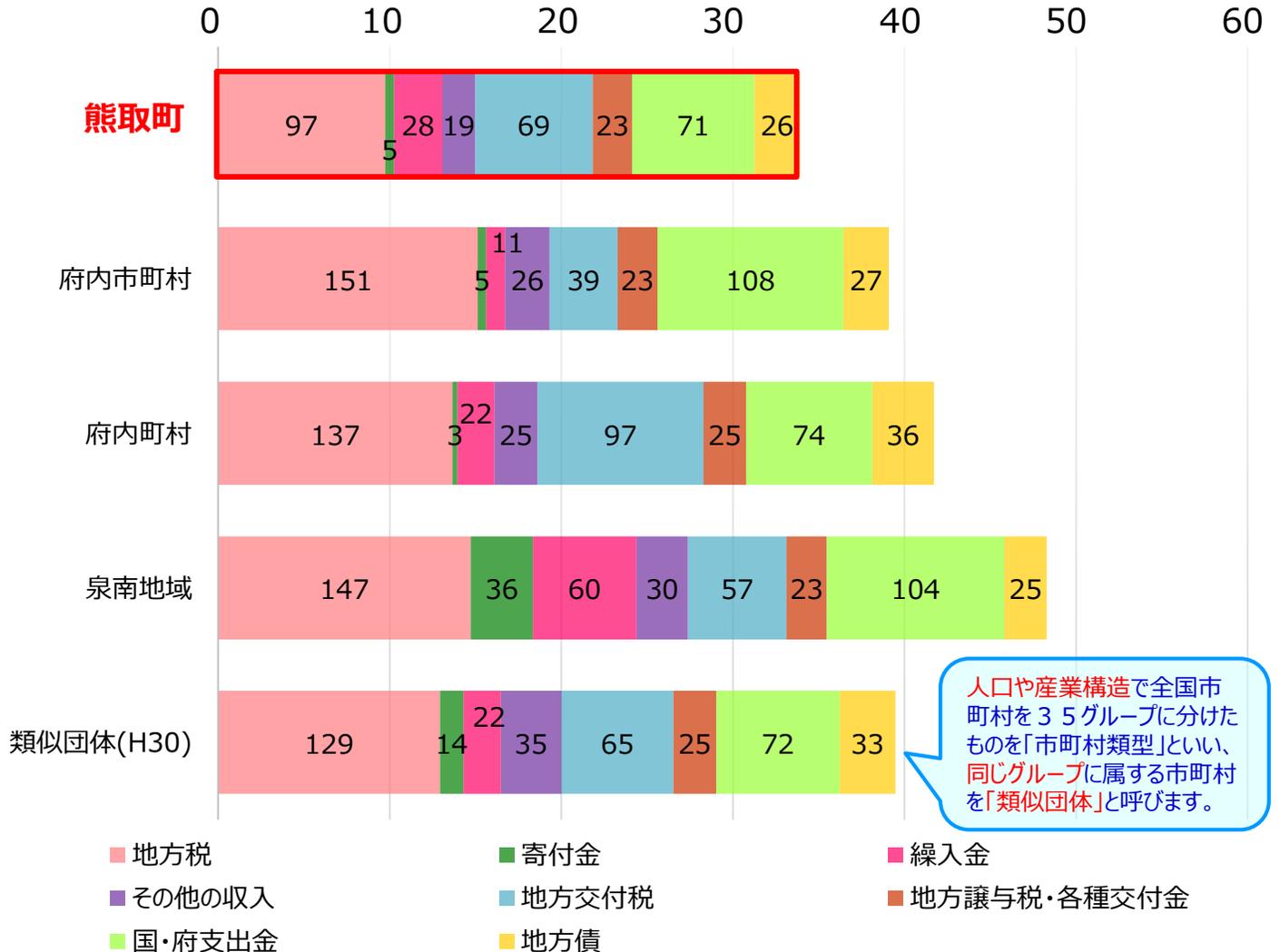
NEW!



⑨他団体との比較【歳入】

一人当たり歳入の比較 (R1)

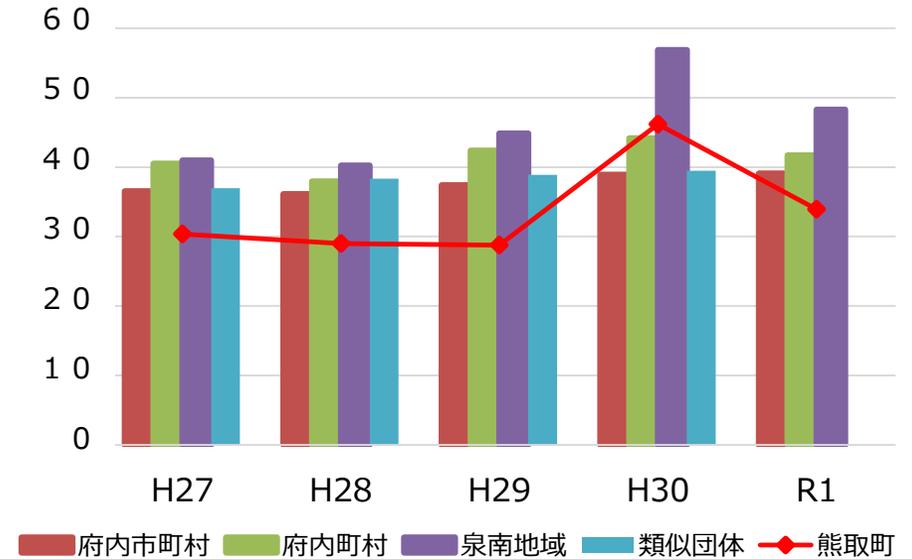
(万円)



人口や産業構造で全国市町村を35グループに分けたものを「市町村類型」といい、同じグループに属する市町村を「類似団体」と呼びます。

一人当たり歳入の推移 (全体)

(万円)



※類似団体についてはH30まで



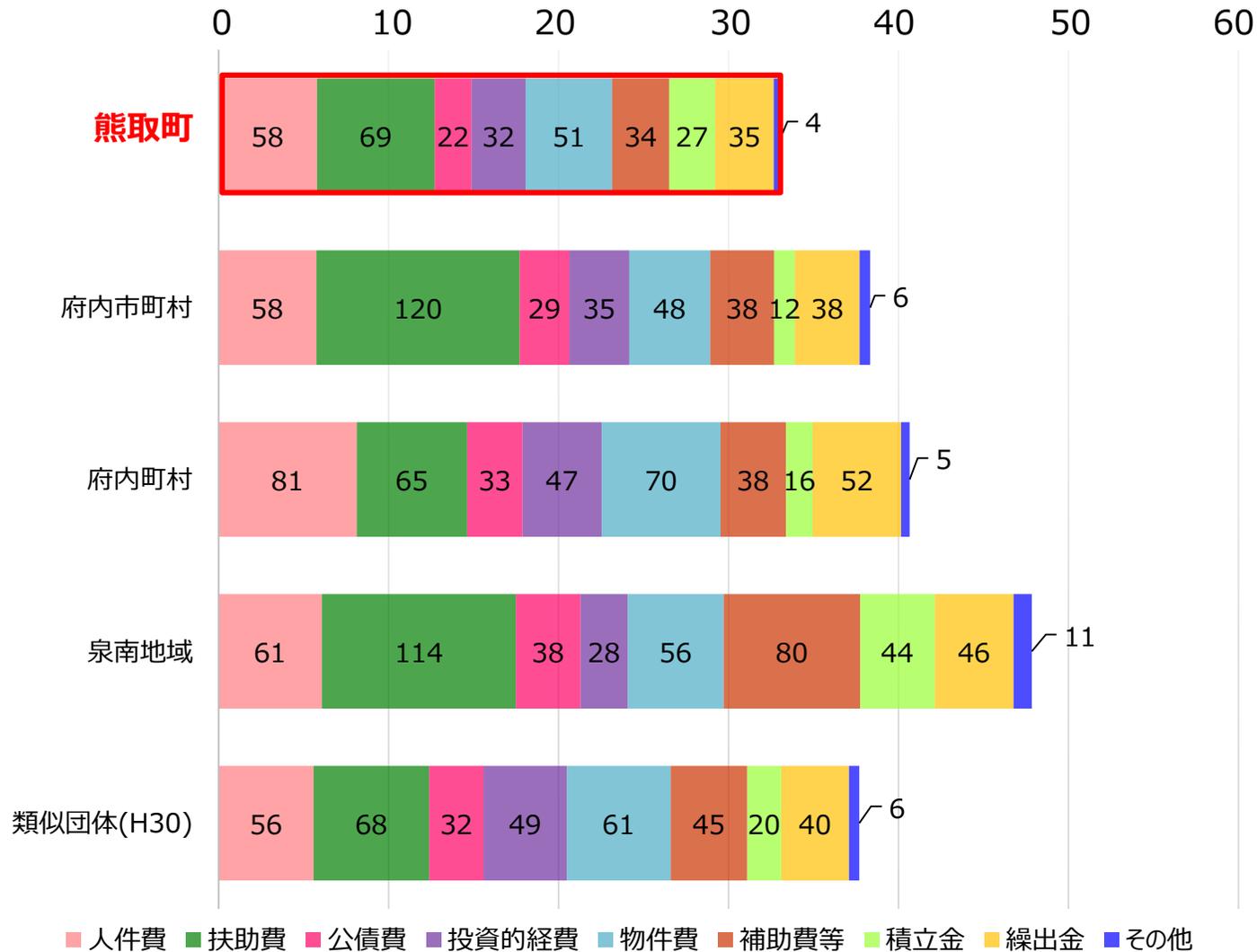
町税について、個人住民税は府内でも中ほどに位置していますが、固定資産税および法人住民税が比較的下位で位置し、全体として税基盤が弱いため、他団体を下回っています。また今後、生産年齢人口の更なる減少により、町税の大幅な増加は見込めない状況です。

令和元年度については、ふるさと応援寄附金が大幅に減少したことにより、住民一人当たりの寄附金が大きく減少することとなりました。基金からの繰入れに依存することなく、町税などの自主財源の確保に努めていくことが大切です。

他団体との比較【歳出】

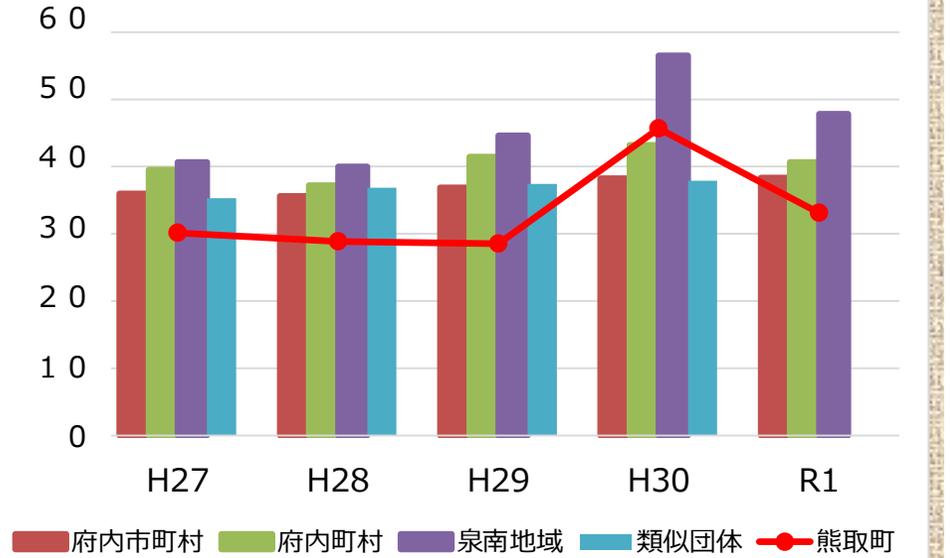
一人当たり歳出の比較(R1)

(万円)



一人当たり歳出の推移 (全体)

(万円)



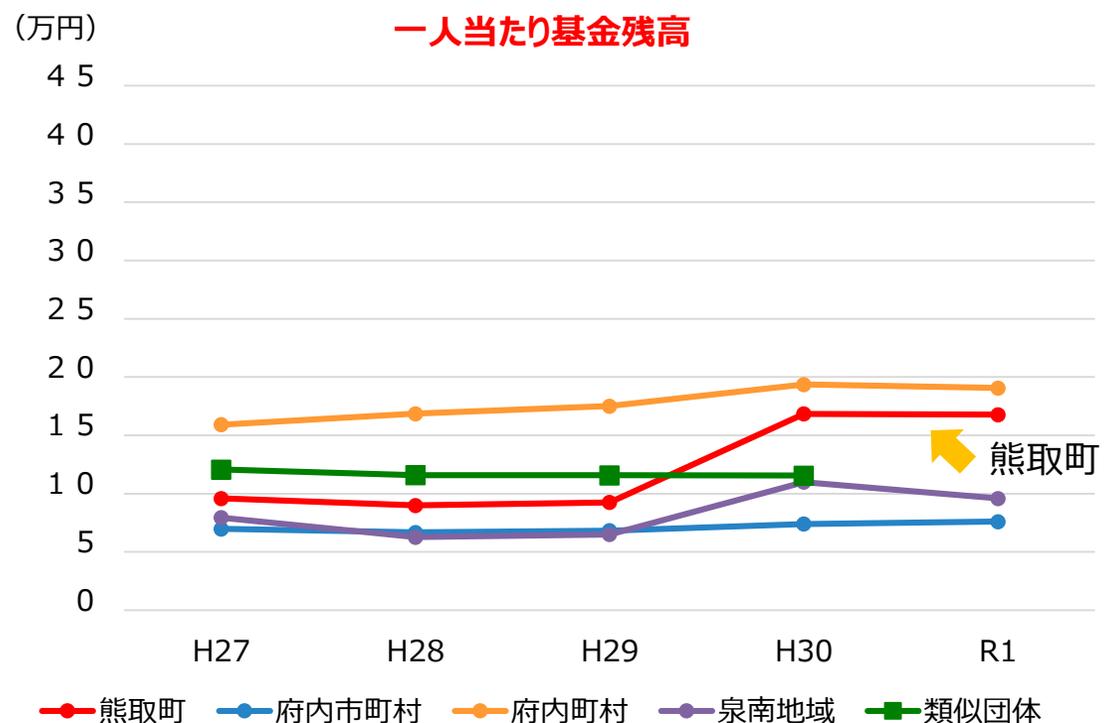
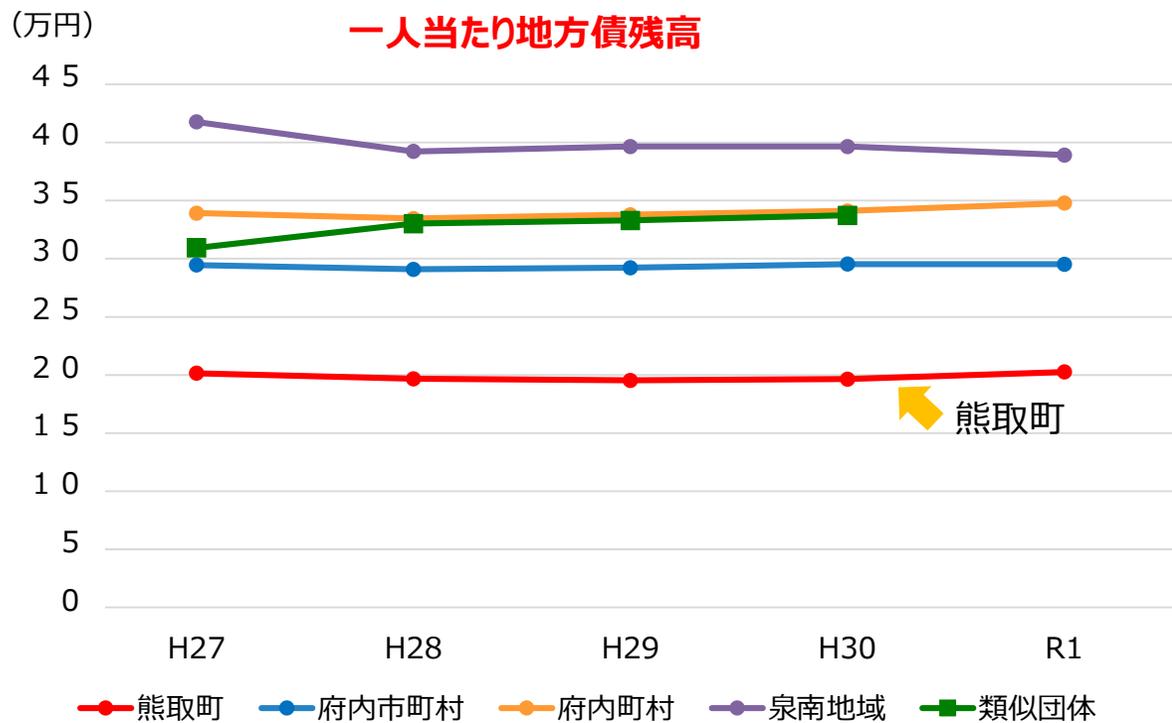
※類似団体についてはH30まで



一人当たり歳出の比較では、ふるさと応援寄附金の大幅な減少により、それに伴う補助費等及び積立金が大きく減少しました。

また、熊取町では、ごみ処理、し尿処理などの事業を直営で行っており、その人件費及び施設の運営経費や維持補修費が類似団体と比較して高くなる傾向にあります。ここ数年は超過勤務の抑制など、行財政改革による経費削減の効果を生み出しており、類似団体と同程度となっています。

他団体との比較【地方債・基金】



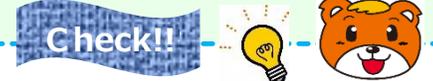
地方債残高については、財政措置のあるものに限って借入れをおこなうなど借入れを抑制してきたことで、他団体と比較して、大幅に下回っている状況が続いています。

今後は公共施設の老朽化対策などにより、借入額の増加が見込まれますが、実施事業の規模などを十分に確認し、借入れの抑制に努め、将来世代に過度な負担を残さない財政運営をおこなっていきます。

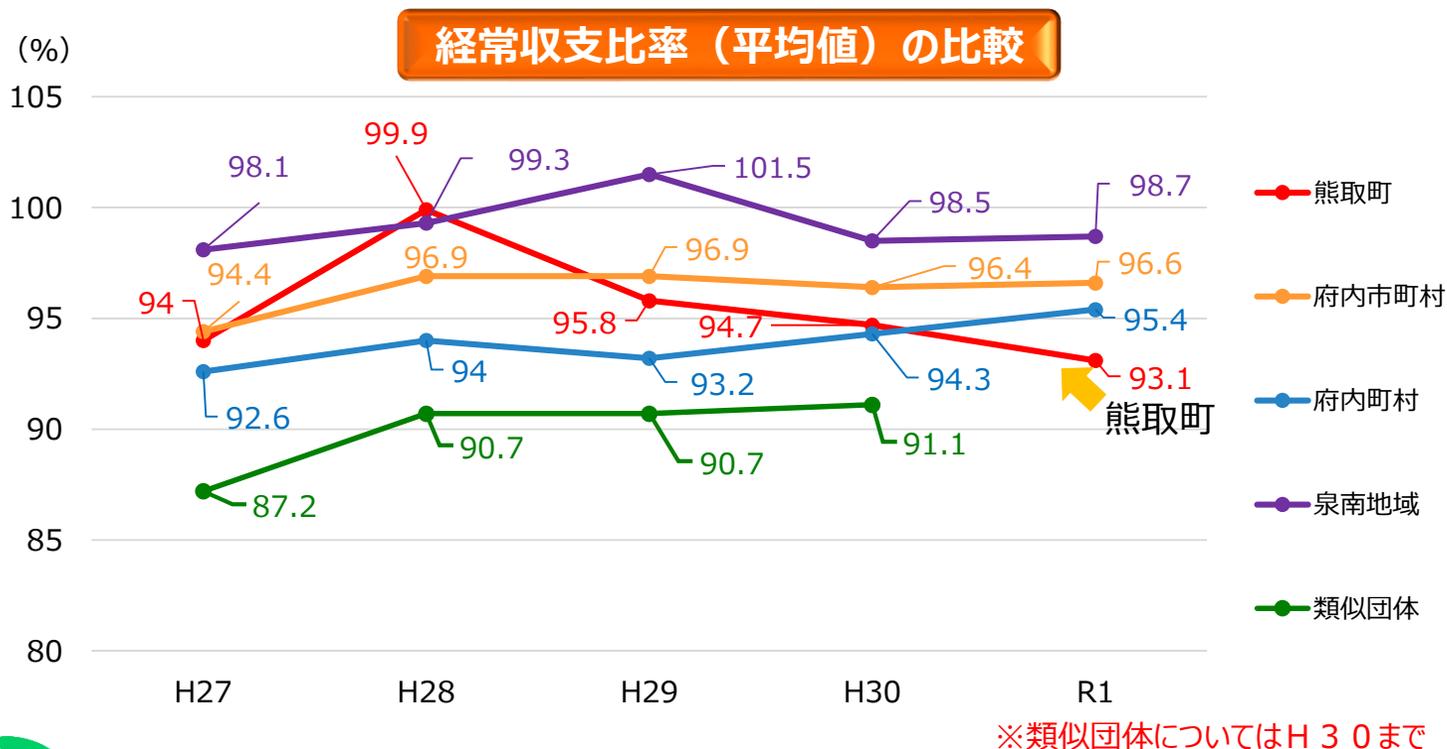


基金残高については、平成30年度における、ふるさと応援寄附金の積立てにより、府内市町村と比較して、大幅に上回っています。

しかし、少子高齢化に伴う扶助費などが今後も増加していくことが予測されるため、基金繰入れに頼ることなく、基金を減少させないように努めていくことが重要です。



10 財政状況は大丈夫？



経常収支比率ってなに？

地方公共団体の財政の弾力性を判断するための指標です。地方税、普通交付税などを中心とする**経常的に収入される一般財源**（経常一般財源）が人件費、扶助費、公債費等の毎年**経常的に支出される経費**（経常経費）にどのくらい充てられているか示しています。

この比率が**高い**ほど、道路整備などの投資的事業や新しい施策を実施する**余力がなくなる**ことを意味します。

令和元年度は前年度に比べて1.6ポイント良化（93.1%）

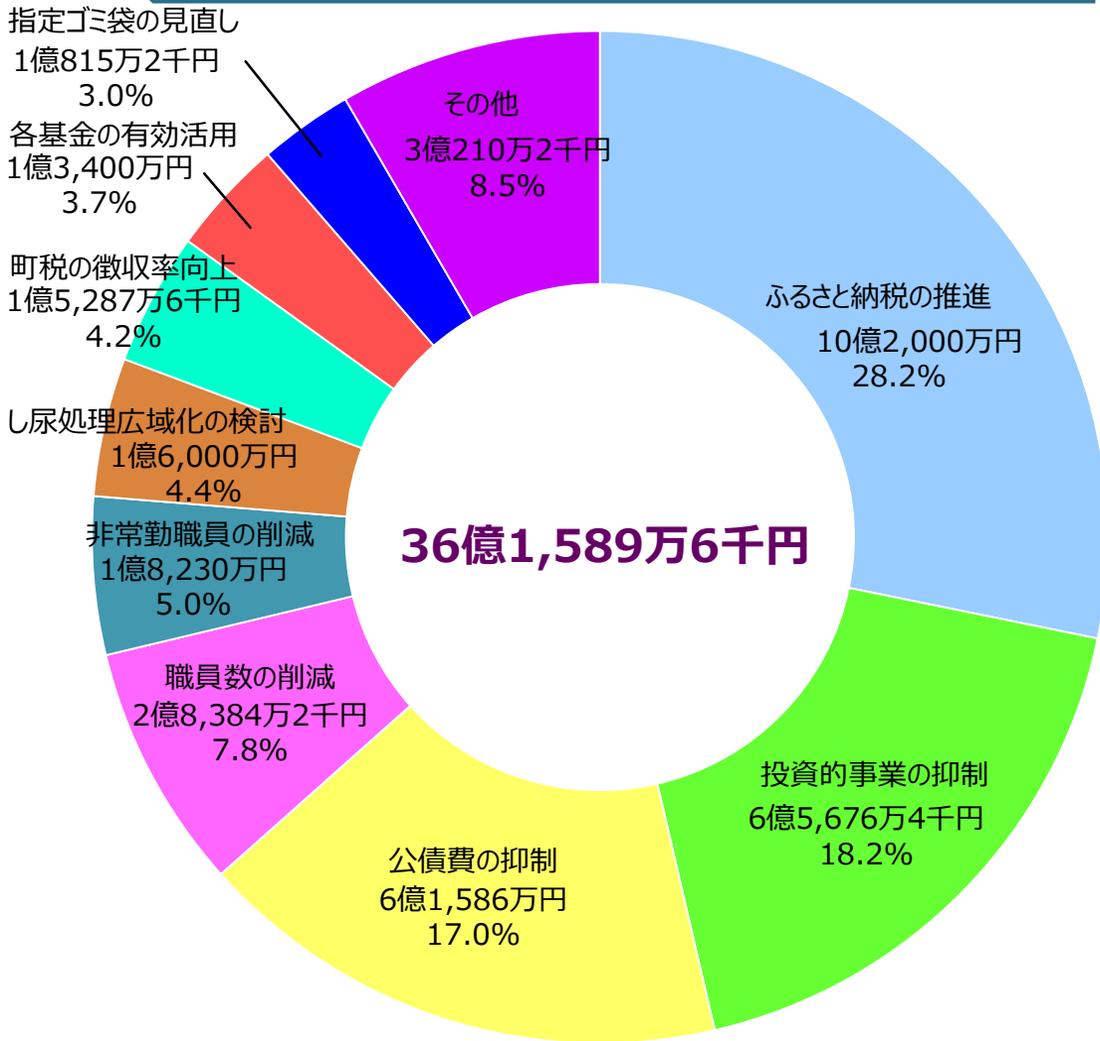
これは、普通交付税と臨時財政対策債の増により分母全体が増加したためです。しかし、分子となる経常経費についても増加しており、今後も引き続き**経費削減**に努めていかなければなりません。

Point

- 令和元年度においては、扶助費や投資的経費の増加などにより、財政調整基金から1億3,600万円を繰り入れることで収支バランスを確保することができました。
- 令和元年度末における町債残高は約88億円ありますが、そのうち元利償還金が後年度の地方交付税に算入される臨時財政対策債が約56億円となっています。また、基金残高も約72億円あることから、当面の財政運営については支障はないと考えています。
- しかしながら、近年は基金の繰入により実質収支の黒字を維持している状況であり、今後は少子高齢化や公共施設の老朽化の進行に伴い、歳入・歳出の両面で厳しい環境になっていくことが想定されることから、継続して行財政改革を進めていく必要があります。

11 第3次行財政構造改革プラン【目標】

総目標効果額（平成30年度～令和4年度）



第3次行財政構造改革プランとは



町では、近年の少子高齢化の進行や人口減少社会に対応した、持続可能かつ、身の丈に合った行財政運営を実現していくことを目指し、「行政改革審議会」での慎重な審議や、その素案に対する住民のみなさんからの意見募集を経て、平成29年12月に「第3次行財政構造改革プラン」を、平成30年3月に「アクションプログラム」を策定しました。

今後は、「第3次行財政構造改革プラン」及び「アクションプログラム」の各改革項目の適切な進捗管理に努めるとともに、働き方改革などの社会経済状況や地方財政状況の変化を的確に捉え、取組の効果が不十分と判断される場合は、適切な取組を随時追加することにより、さらなる行財政改革の推進に取り組んでいきます。

※プラン及びアクションプログラムは、役場、図書館、町ホームページでご覧いただけます。

第3次行財政構造改革プラン【実績】

■ 各改革項目の取り組みによる効果額 ※特定財源を除いた一般財源ベース

(単位：千円)

| 年 度 | 目標効果額 (A) | 実績効果額 (B) | 目標額と実績額との差額 (B) - (A) |
|-------|-----------|-----------|-----------------------|
| 令和元年度 | 639,398 | 511,032 | △ 128,366 |

■ 実績効果額が500万円以上の取り組みとその効果額

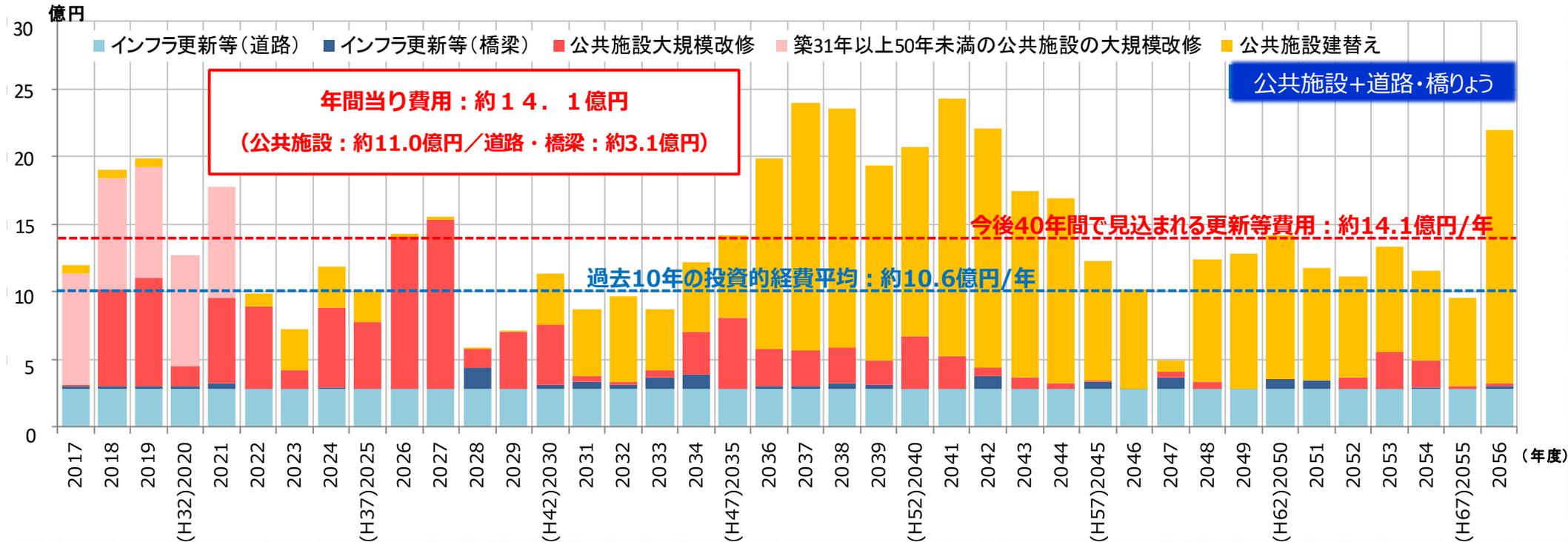
(単位：千円)

| 改革項目 | 目標効果額 | 実績効果額 |
|--------------------------|---------|---------|
| 基幹系システムにおけるクラウドの導入等 | 5,580 | 5,651 |
| 投資的事業の抑制 | 151,484 | 34,975 |
| 資本費平準化債の増額発行【公営企業会計】 | 10,000 | 20,000 |
| 業務の見直しによる非正規職員の削減 | 18,460 | 30,551 |
| 各基金の有効活用 | — | 33,514 |
| 町税、保険料等の徴収率向上（町税） | 20,240 | 83,931 |
| ふるさと納税の推進 | 204,000 | 116,602 |
| 職員数の削減 | 50,946 | 69,141 |
| 人件費の削減（現町長の給料削減及び退職手当廃止） | 13,308 | 13,664 |
| 公債費の抑制 | 117,330 | 119,905 |

令和元年度は、投資的事業の増加もあり目標には届かなかったものの、一定の効果額はあがっているね。



12 公共施設等の老朽化対策



普通会計の対象となる公共施設と道路・橋梁について、今後も同規模に維持し続けるものとして、中長期的に必要な更新等の概算費用を算出すると、今後40年間の費用総額として最低でも約562億円、**年間あたりの費用**で見ると、**約14.1億円**の費用が見込まれます。これに対して、過去10年間の**投資的経費の平均**を見ると年間**約10.6億円**であり、投資的経費を全て更新等の費用に充当すると仮定した場合、公共施設等の更新等に必要な費用については、**約3.5億円超過**することとなります。

これまでの投資的経費の水準を上回る規模の財政支出が見込まれる中、人口動向や財政状況等を踏まえつつ、**更新や改修等の対象とすべき施設の取捨選択**の検討を進めるなど、「量」と「質」の両面から公共施設等の最適化を進めていく必要があります。

持続可能な財政運営に向けた対応

「熊取町公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の老朽化対策に取り組んでいるよ！



⇒「熊取町公共施設等総合管理計画」HPはこちら

13 これからどうなっていくんだらう？

■ 収支見通し（5年間）

| 区分 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-------------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 収入 | 町税 | 4,167 | 4,138 | 4,146 | 4,153 | 4,142 |
| | 地方交付税 | 2,970 | 2,970 | 2,970 | 2,970 | 2,970 |
| | 繰入金（基金取崩し） | 449 | 72 | 326 | 470 | 386 |
| | その他 | 14,597 | 12,215 | 12,928 | 13,006 | 13,049 |
| 収入合計（A） | | 15,345 | 13,311 | 13,778 | 13,719 | 13,835 |
| 支出 | 人件費 | 3,067 | 3,067 | 3,067 | 3,067 | 3,067 |
| | 扶助費 | 3,109 | 3,192 | 3,275 | 3,358 | 3,441 |
| | 公債費 | 881 | 843 | 861 | 861 | 861 |
| | 投資的経費 | 2,871 | 781 | 1,094 | 844 | 810 |
| | その他 | 19,089 | 14,229 | 14,797 | 14,821 | 15,020 |
| 支出合計（B） | | 15,295 | 13,261 | 13,728 | 13,669 | 13,785 |
| 収支（A） - （B） | | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |

人口減少により町税が減少見込

繰入金（貯金の取崩し）なしでは赤字になってしまいます。

少子高齢化が進むことで扶助費が年々増加見込

公共施設の老朽化対策などにより投資的経費は増加見込

※

主な基金の残高（R1末残高）

- 財政調整基金残高 約10億円
- 公共施設整備基金 約15億円
- くまとりふるさと応援基金 約29億円

※収支が50百万円になるよう、基金から繰り入れ（繰入金）しています。

これからいろんな課題が重なって、貯金を崩さないと赤字になってしまうね～収入の増加も見込めないし、大事に使わないといけないね！



14 課題と取り組み（まとめ）

■ 課 題

- 今後、歳入面では、生産年齢人口の減少や地価の下落等に伴い、町税の増加が見込めない状況です。
- 歳出面では、少子高齢化の進行に伴い、社会保障関連経費や医療費助成等の扶助費、各特別会計への繰出金等の増加が見込まれます。
- 公共施設の老朽化が進んでおり、南海トラフ地震への備えも必要なことから、大規模改修や建替えなどの課題を抱えています。

■ 取り組み

- 持続可能な行財政運営を実現するため、平成30年度から令和4年度まで「第3次行財政構造改革プラン」により、民間委託の推進、公共施設の統廃合や維持管理経費の削減、業務の効率化などに向けた取り組みをおこなっています。
- 大規模災害への迅速かつ機動的な対応を可能とするため、令和元年度に「くまとりふるさと応援基金」10億円を原資とする「くまとり防災基金」を創設しました。

■ 皆さまへ

このように熊取町は様々な課題を抱えています。そこで住民の皆様にも次のようにご協力をお願いします。

- 食品ロスの削減やリサイクルの活用などによる、ごみの削減にご協力をお願いします。
- 災害に備えて、家の安全対策や災害時にどのように行動したらよいのかの確認、水や食料などの備蓄を進めていただきますようお願いいたします。
- 町税や国民健康保険料等の納期内納付をお願いします。



ご協力よろしくお願いします！

